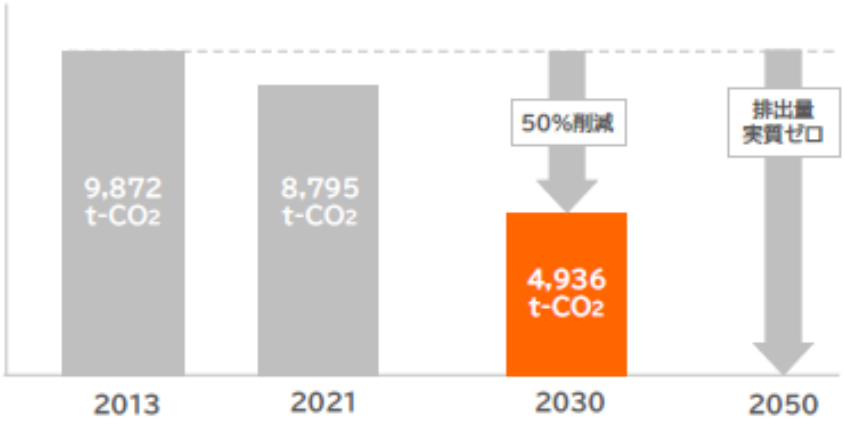
三浦市地球温暖化対策実行計画【事務事業編】2025（令和７）年度実績報告

１　温室効果ガス削減目標

三浦市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）は、市の事務事業から排出される温室効果ガスの削減について規定しています。この計画では、温室効果ガスのうち、二酸化炭素（CO_2）、メタン（CH_4）、一酸化二窒素（N_2O）、ハイドロフルオロカーボンを対象とし、削減目標は基準年度（2013（平成 25）年度）比で 2030（令和 12）年度までに 50%としています。なお、最終的には 2050（令和 32）年度までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指すこととしています。





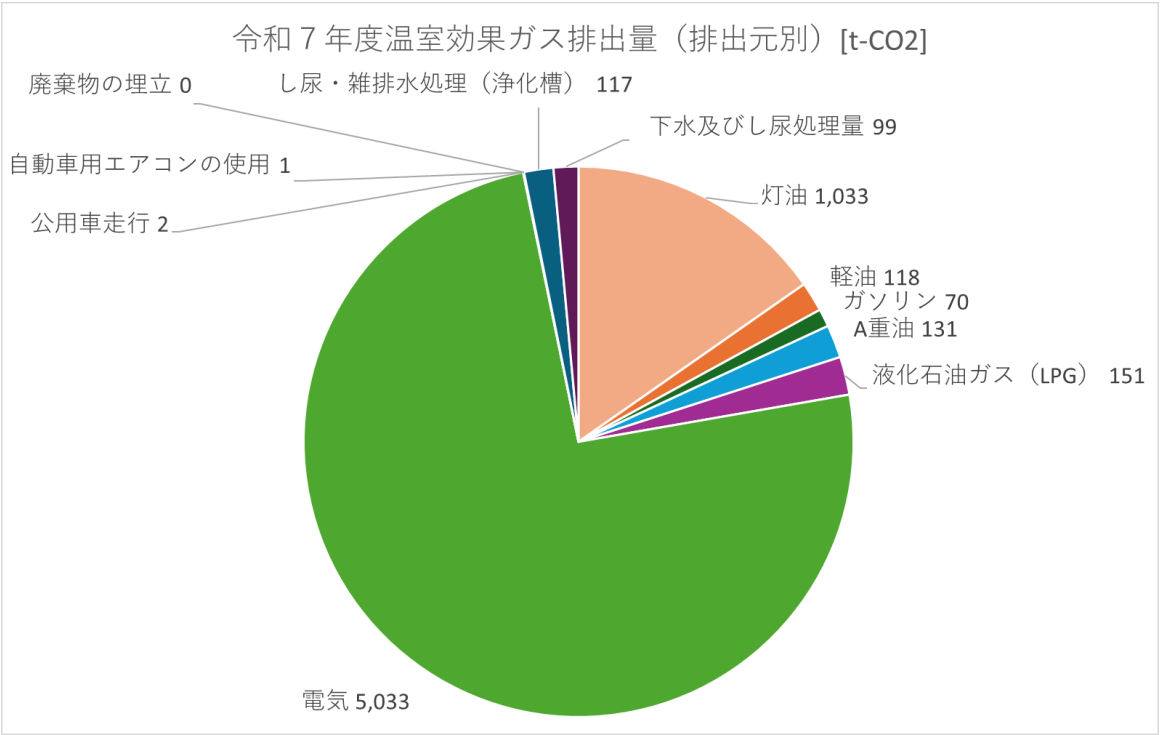
図：三浦市地球温暖化対策実行計画より抜粋

2　2025（令和７）年度の実績

令和７年度、市の事務事業から排出された温室効果ガスは、二酸化炭素に換算して 6,754t で、基準年度から 31.58%の減となりました。

令和7年度温室効果ガス排出量（排出元別）

項目		平成25年度（基準年度） 温室効果ガス排出量	令和7年度 温室効果ガス排出量
燃料使用	灯油	952 [t-CO_2]	1,033 [t-CO_2]
	軽油	223 [t-CO_2]	118 [t-CO_2]
	ガソリン	172 [t-CO_2]	70 [t-CO_2]
	A重油	142 [t-CO_2]	131 [t-CO_2]
	液化石油ガス（LPG）	115 [t-CO_2]	151 [t-CO_2]
電気		7,919 [t-CO_2]	5,033 [t-CO_2]
公用車走行		6 [t-CO_2]	2 [t-CO_2]
自動車用エアコンディショナーの使用		1 [t-CO_2]	1 [t-CO_2]
廃棄物の埋立		108 [t-CO_2]	0 [t-CO_2]
し尿・雑排水処理（浄化槽）		122 [t-CO_2]	117 [t-CO_2]
下水及びし尿処理量		112 [t-CO_2]	99 [t-CO_2]
排出量計		9,872 [t-CO_2]	6,754 [t-CO_2]
基準年度に対する温室効果ガスの削減率			31.58%



補足；軽油やガソリンを燃料とする自動車は、走行時に燃料の中の炭素の燃焼による二酸化炭素以外にも、不完全燃焼や窒素の燃焼によりメタンと一酸化二窒素を排出します。「公用車走行」による排出量はこのように排出されるメタンと一酸化二窒素を示します。

令和7年度温室効果ガス排出量（温室効果ガス別）

項目	平成25年度（基準年度）	令和7年度
	温室効果ガス排出量	温室効果ガス排出量
二酸化炭素（CO2）	9,523 [t-CO_2]	6,535 [t-CO_2]
メタン（CH4）	227 [t-CO_2]	122 [t-CO_2]
一酸化二窒素（N2O）	121 [t-CO_2]	96 [t-CO_2]
ハイドロフルオロカーボン	1 [t-CO_2]	1 [t-CO_2]
排出量計	9,872 [t-CO_2]	6,754 [t-CO_2]
基準年度に対する温室効果ガスの削減率		31.58%

3　温室効果ガス排出量の推移

温室効果ガス排出量の推移

項目	温室効果ガス排出量（t-CO2）			
	H25（基準）	R5	R6	R7
灯油	952	1,273	873	1,033
軽油	223	140	127	118
ガソリン	172	66	70	70
A重油	142	139	117	131
液化石油ガス（LPG）	115	113	157	151
電気使用量	7,919	5,606	5,338	5,033
公用車走行量	6	3	2	2
自動車用エアコンディショナーの使用	1	1	1	1
廃棄物の埋立	108	0	0	0
し尿・雑排水処理（浄化槽）	122	116	121	117
下水及びし尿処理量	112	105	103	99
排出量計	9,872	7,562	6,909	6,754

4　温室効果ガス排出量の変動の主な要因

・軽油、ガソリン、公用車走行

軽油やガソリンの使用による温室効果ガス排出量は基準年度から大幅に減少しています。公用車の台数を削減したことと、一部に電気自動車やハイブリッド車を導入したためです。同じ理由により、公用車走行による排出量も減少しています。

・液化石油ガス（LPG）

LPG の使用による温室効果ガス排出量は基準年度に比べて増加してしまっています。これは、基準年度に比べて LPG を使用する施設数が増加したためです。（三浦市低温卸売市場など）

・電気

電気による温室効果ガスの排出量は基準年度に比べて減少しています。職員の省エネの取組みなどにより電気の使用量が基準年度より減少していることに加え、発電時に CO_2 を排出しない電気を一部の施設（小中学校、市役所庁舎、水道施設、市場の一部（令和 7 年度から）など）で導入しているためです。また、令和 6 年度、下水道終末処理場に太陽光パネルを設置し、運用を開始しています。発電した電気を自家消費することで電気の購入量を抑制しています。

・廃棄物の埋立

ごみ処理の広域化に伴い、令和 2 年 1 月に分別を変更し、埋立の際にメタンを排出するごみを最終処分場に埋め立てることはなくなりました。このため、廃棄物の埋立による温室効果ガスの排出量が 0 になっています。

引き続き、三浦市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）に基づき、市の事務事業により排出される温室効果ガスの削減に努めて参ります。